

CA92344-2253-03

FUJITSU Server

PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ

ServerView Suite 留意事項一覧

2019 年 4 月
富士通株式会社



目次

.....	1
はじめに	3
I. ServerView Suite DVD 版数と OS 版数との対応	4
1. ServerView Suite DVD 版数と Windows Server 版数の対応	4
2. ServerView Suite DVD 版数と Linux 版数の対応	5
2.1 Red Hat Enterprise Linux 版数の対応	5
2.2 Suse Enterprise Linux 版数の対応	5
3. ServerView Suite DVD 版数と VMware 版数の対応	6
II. ServerView Suite V12.18.06, V12.18.08, V12.18.10 に関する留意事項	7
III. ServerView Suite V13.19.01 に関する留意事項	8
1. ServerView Operations Manager (SVOM) の留意事項 (V13.19.01)	8
2. ServerView Agents の留意事項 (V13.19.01)	10
3. ServerView RAID の留意事項 (V13.19.01)	12
4. ServerView Mission Critical Option (SVMco) の留意事項 (V13.19.01)	14
5. ServerView Mission Critical Option for VM (SVMcovm) の留意事項 (V13.19.01)	17
6. ServerView ESXi CIM Provider の留意事項 (V13.19.01)	18
7. ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項 (V13.19.01)	20
8. ServerView Update Manager (SVUM) の留意事項 (V13.19.01)	31
9. ServerView Update Manager Express (SVUME) の留意事項 (V13.19.01)	31
IV. ServerView Suite V13.19.04 に関する留意事項	32
1. ServerView Operations Manager (SVOM) の留意事項 (V13.19.04)	32
2. ServerView Agents の留意事項 (V13.19.04)	34
3. ServerView RAID の留意事項 (V13.19.04)	36
4. ServerView Mission Critical Option (SVMco) の留意事項 (V13.19.04)	38
5. ServerView Mission Critical Option for VM (SVMcovm) の留意事項 (V13.19.04)	41
6. ServerView ESXi CIM Provider の留意事項 (V13.19.04)	42
7. ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項 (V13.19.04)	44
8. ServerView Update Manager (SVUM) の留意事項 (V13.19.04)	55
9. ServerView Update Manager Express (SVUME) の留意事項 (V13.19.04)	55
10. PrimeCollect の留意事項 (V13.19.04)	55

はじめに

本書は ServerView Suite V13.19.01 以降の版数に関する PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズに対する留意事項を記述しています。ServerView Suite V12.18.10 以前の版数については『PRIMEQUEST 1000 シリーズ ServerView Suite 留意事項』C122-E149-xx、C122-E159-xx、C122-E185-xx、『PRIMEQUEST 2000/1000 シリーズ ServerView Suite 留意事項』CA92344-0544-xx、CA92344-0678-xx、CA92344-1519-xx をご覧ください。また、PRIMERGY シリーズとの共通的な情報として以下の資料があります。本書とあわせてお読みください。

ServerView Suite DVD1 のソフトウェア留意事項

ServerView Suite ServerView Installation Manager (SVIM) 補足情報

これらの資料は下の URL から取得できます。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/2000/os/svs/>

ServerView Suite DVD1 に含まれる PRIMEQUEST 3000/2000/1000 シリーズのドライバ、添付ソフトおよび MIB については下の URL から取得できます。

PRIMEQUEST 1000

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/1000/>

PRIMEQUEST 2000

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/2000/>

PRIMEQUEST 3000

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/3000/>

I. ServerView Suite DVD 版数と OS 版数との対応

1. ServerView Suite DVD 版数と Windows Server 版数の対応

ServerView Suite 版数	Windows Server					
	2008 (x86/x64)	2008 R2	2012	2012 R2	2016	2019
V13.19.01	×	×	○	○	○	○
V13.19.04	×	×	○	○	○	○

○: サポート ×: 非サポート

2. ServerView Suite DVD 版数と Linux 版数の対応

2.1 Red Hat Enterprise Linux 版数の対応

ServerView Suite 版数	Red Hat Enterprise Linux					
	6.9	6.10	7.3	7.4	7.5	7.6
V13.19.01	×	○	×	○	○	○
V13.19.04	×	○	×	○	○	○

○: サポート ×: 非サポート

2.2 Suse Hat Enterprise Linux 版数の対応

ServerView Suite 版数	Suse Enterprise Linux					
	11 sp3	11 sp4	12 sp2	12 sp3	12 sp4	15
V13.19.01	×	○	×	○	○	○
V13.19.04	×	×	×	○	○	○

○: サポート ×: 非サポート

3. ServerView Suite DVD 版数と VMware 版数の対応

ServerView Suite 版数	ESXi 5.5	ESXi 5.5U1	ESXi 5.5U2	ESXi 5.5U3
V13.19.01	×	×	×	×
V13.19.04	×	×	×	×

○: サポート ×: 非サポート

ServerView Suite 版数	ESXi 6.0U1	ESXi 6.0U2	ESXi 6.0U3	ESXi 6.5	ESXi 6.5U1	ESXi 6.5U2	ESXi 6.7	ESXi 6.7U1
V13.19.01	○	○	○	○	○	○	○	○
V13.19.04	○	○	○	○	○	○	○	○

○: サポート ×: 非サポート

II. ServerView Suite V12.18.06, V12.18.08, V12.18.10 に関する留意事項

※ServerView Suite V12.18.06, 12.18.08, 12.18.10 の留意事項に関しては V12.18.04（前版数）を参照してくださ

III. ServerView Suite V13.19.01 に関する留意事項

1. ServerView Operations Manager (SVOM) の留意事項 (V13.19.01)

(1) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

PRIMEQUEST シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意してください。

サーバリストへのオブジェクトの追加で、PRIMEQUEST シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST

(2) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

SVOM から PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。

MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストしてください。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照ください。

『運用管理ツールリファレンス』

「1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー」

■[SNMP Trap] 画面

(3) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

ドライバモニタ機能で検出したイベントは、事象が解消した後、すみやかにステータスをクリアしてください。

ステータスをクリアしていない場合、ステータスが Normal 以外のハードウェアのイベントが抑止され、通報されません。

ステータスクリアの方法:

- 1) SVOM 画面からドライバモニタ画面を開く。
- 2) ステータスをクリアしたいコンポーネントを選択して、承認ボタンを押す。
- 3) 画面上部の更新ボタンを押す。

(4) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

パーティションの電源制御を行う場合は、SVOM の電源制御機能は使用せず、MMB から電源制御を行ってください。

(5) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

ServerView Operations Manager for Windows V7.20.04 以降を Windows Server 2016 上にインストールする場合は、事前に .NET Framework 3.5 のインストールが必要です。

(6) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

Extended Partitioning 構成の場合に Single System View の CPU の構成表示が正しくありません。正しい値を確認するには MMB Web-UI を使用してください。

(7) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

Single System View でバッテリー情報を表示した際の電源 ON 時間が正しく表示されません。正しい値を確認するには MMB Web-UI を使用してください。

2. ServerView Agents の留意事項 (V13.19.01)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ドライバモニタで表示されるイベント情報は、OS の再起動、または ServerView Agents の再起動で情報がクリアされます。

(2) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

OS 起動時には、正常にログ監視ができない場合があります。OS 起動後の SVOM 画面で、IO に異常がないか確認してください。

(3) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

PRIMEQUEST 2000 シリーズで Windows Server 2008 R2 を ServerView Installation Manager を使用せず手動でインストールした環境で使用する場合、ServerView Agents をインストールする前に、以下の Windows 修正プログラムを適用してください。

<http://support.microsoft.com/kb/2674913/ja>

(4) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Windows 環境において、以下の操作を行った場合、手動で ServerView Agents の再起動が必要になります。

- ServerView Agents が既にインストールされている状態で ServerView RAID をインストールした場合。

ServerView Agents の再起動を実施しない場合、ServerView RAID に関するイベント(28500～28999)の故障箇所特定が行えません。

「Diagnostic Tools」メニューの「Restart Agents」で ServerView Agents の再起動を行ってください。

(5) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Red Hat Enterprise Linux 7 環境において ServerView Agents 起動時に、下記の WARNING メッセージが /var/log/messages に出力される場合がありますが、動作には影響ありません。

```
systemd: [/etc/rc.d/init.d/eecd:21] Failed to add dependency on +aurad.service, ignoring: Invalid argument
```

```
systemd: [/etc/rc.d/init.d/srvmagt_scs:19] Failed to add dependency on +eecd.service, ignoring: Invalid argument
```

(6) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ServerView Agents を RHEL7.2 にインストールする場合に、「succeeded!」の表示のあとに、以下のようなエラーメッセージが出力される場合があります。

「./functions: 行 76: log_failure_msg: コマンドが見つかりません
Starting aborted with status 1 (General error).」
インストールは正常に終了している為、このメッセージの対応は必要ありません。

3. ServerView RAID の留意事項 (V13.19.01)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

- 1) 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID : 51

種類 : 警告

ソース : Disk

説明 : ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddiskx¥DRy 上でエラーが検出されました。

→記録されている場合は、2)へ。

- 2) ServerView RAID 画面から、上記 1)で発生したデバイスが表示されているか確認します。

→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、3)へ。

- 3) ServerView RAID 画面から、上記 2)上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。

→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。

(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

(2) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Windows 環境において、以下の操作を行った場合、手動で ServerView Agents の再起動が必要になります。

- ・ ServerView Agents が既にインストールされている状態で ServerView RAID をインストールした場合。

ServerView Agents の再起動を実施しない場合、ServerView RAID に関するイベント(28500～28999)の故障箇所特定が行えません。

「Diagnostic Tools」メニューの「Restart Agents」で ServerView Agents の再起動を行ってください。

(3) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ホスト名が解決されるようにネットワーク環境を設定してください。名前解決ができない場合は、ServerView RAID Manager サービスが正常に起動しない場合があります。

<例>

ServerView RAID Manager が起動せず、以下のメッセージが記録されます。

Waiting until ServerView-RAID service is listening on port #3173 0 giving up after 30 seconds

ServerView-RAID service is not listening. Continue anyway.

現象が発生する場合は、"/etc/hosts"ファイルに設定を追記してください。

<例>

192.168.0.1 Hostname

127.0.0.1 localhost localhost.localdomain localhost4 localhost4.localdomain4
::1 localhost localhost.localdomain localhost6 localhost6.localdomain6

(4) [PRIMEQUEST 2400S2 Lite/2400S2/2400E2/2400L2/2800E2/2800L2]

ServerView RAID で DISK UNIT の監視を行う場合、ディスクが搭載されている DISK UNIT の搭載スロット番号と ServerView RAID 上の物理ドライブ番号が一致しません。

ServerView RAID で監視を行なう場合は、以下のように読み替えて運用してください。

ServerView RAD 物理ドライブ番号	DISK UNIT 搭載スロット番号
0	HDD#0
1	HDD#1
4	HDD#2
5	HDD#3

4. ServerView Mission Critical Option (SVMco) の留意事項 (V13.19.01)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

SVMco1.4 版以降を使用しており、IPv6 を無効にする場合、以下の snmptrapd の設定ファイルから設定の削除が必要です。

設定を削除しない場合、Trap を受信することが出来ない状態となり、例えば PRIMECLUSTER 連携をしている場合、他ノードからの Trap を受信できない問題などがあります。

以下の手順に従って設定を削除して下さい。

1. /etc/snmp/snmptrapd.conf を開き、以下の”udp6:162”を削除する。

修正前:

```
snmpTrapdAddr udp:162,udp6:162
```

修正後:

```
snmpTrapdAddr udp:162
```

2. snmptrapd を再起動し、正常に起動することを確認します。

```
#!/etc/init.d/snmptrapd restart
```

```
snmptrapd を停止中: [ OK ]
```

```
snmptrapd を起動中: [ OK ]
```

```
#
```

(2) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Red Hat Enterprise Linux 上で SVMco 起動時、syslog に以下のメッセージが出力された場合、再起動手順に従って SVMco を再起動して下さい。

```
SVMco: E 02801 y10SVMco Initialization Error
```

【再起動手順】

以下の手順を管理者権限で実行して下さい。

- 1) SVMco を停止します。

```
# service y10SVMco stop
```

- 2) ipmi サービスを再起動するため、ipmi を使用しているその他のサービスを停止する必要があります。

以下のソフトウェアがインストールされている場合にはサービスを停止してください。

停止方法については、各製品のマニュアル/README を参照して下さい。

- ServerView Agent
- ServerView Agentless Service
- PRIMEQUEST REMCS Option

注意事項

その他、ipmi サービスを使用しているソフトウェアをインストールしている場合、それらのサービスも停止させてください。

- 3) IPMI サービスを再起動します。

```
#service ipmi stop
```

```
#service ipmi start
```

- 4) 手順 1、2 で停止したサービスを起動します。

例: SVMco の場合は以下の通り。その他の製品については各製品のマニュアルを参照して下さい。

```
# service y10SVMco start
```

```
# service y30SVMco start
```

SVMco 再起動後、syslog に以下のメッセージが出力されていない事を確認して下さい。

```
SVMco: E 02801 y10SVMco Initialization Error
```

出力される場合、上記の 1～4 の手順を再度実施して下さい。

(3) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Extended Partitioning の場合、SVmco インストール後の初回起動に 10 分ほどかかることがあります。

(4) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

OS が RHEL6.8 以降で SVmco のアンインストール時に下記のメッセージが出力されますがアンインストールは正常に行えているため問題ありません。

警告: erase xxxxx の unlink に失敗: そのようなファイルやディレクトリはありません

※ xxxxx はファイル名が記載されます。

(5) [PRIMEQUEST 3000 シリーズ]

PRIMEQUEST 3000 シリーズはサポート対象外です。

5. ServerView Mission Critical Option for VM (SVmcovm) の留意事項 (V13.19.01)

(1) [PRIMEQUEST 3000 シリーズ]

PRIMEQUEST 3000 シリーズはサポート対象外です。

6. ServerView ESXi CIM Provider の留意事項 (V13.19.01)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ServerView ESXi CIM Provider V7.01.04 からソフトウェアウォッチドッグの動作が変更になりました。

ソフトウェアウォッチドッグはシステム監視用途にのみ使用することができます。

使用する場合は SVOM または MMB のソフトウェアウォッチドッグの設定画面で以下の条件を満たす設定にする必要があります。

SVOM の場合

異常時動作: 継続動作

タイムアウト時間: 4 分以上の値

MMB の場合

Action when watchdog expires : continue

Timeout time(second) : 240 秒以上の値

設定方法の詳細については、それぞれのマニュアルを参照してください。

(2) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ServerView Operations Manager(SVOM)からパーティションの監視を行うことができません。

PRIMEQUEST のハードウェア監視は、以下のいずれかの方法で行ってください。

1. SVOM を使用してパーティション監視を行う場合

以下の条件でのみパーティションの監視を行うことが可能です。

条件に合致しない場合、2. または3. の方法で監視を行ってください。

1SB でパーティションを構成している場合:

ServerView ESXi CIM Provider V7.20.21 以降のバージョンを使用することで、SVOM でパーティションの監視が行えます。

なお、VMware ESXi 6.5 を使用している場合は ServerView ESXi CIM Provider V7.31.14 以降のバージョンが必要となります。

VMware ESXi 5.5 を使用している場合:

ServerView ESXi CIM Provider V7.00.08 以前のバージョンを使用することで、SVOM でパーティションの監視が行えます。

使用できる ServerView ESXi CIM Provider の版数は装置によって異なりますので、各 ServerView ESXi CIM Provider の対応版数をご確認ください。

2. SVOM を使用して筐体ノードのみハードウェア監視を行う場合

SVOM のサーバリストで PRIMEQUEST 筐体ノードのみハードウェア監視を行うことが可能です。

SVOM では PRIMEQUEST 筐体ノード配下の各パーティションノード (VMware ESXi) の直接の監視は正しく行えません。ただし、MMB がハードウェア監視を行っており、SVOM のサーバリストの PRIMEQUEST 筐体ノードのステータスに反映されるため、ここで確認ができます。

仮想マシンの情報 (VMware ESXi ホスト配下の仮想マシンの情報) や OS の情報については vCenter Server で確認ができます。

3. SVOM を使用せず監視を行う場合

MMB Web-UI でハードウェアの監視を行ってください。

仮想マシンの情報 (VMware ESXi ホスト配下の仮想マシンの情報) や OS の情報については MMB Web-UI では確認できません。vCenter Server で確認してください。

7. ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項 (V13.19.01)

(1) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

One Command Manager 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。

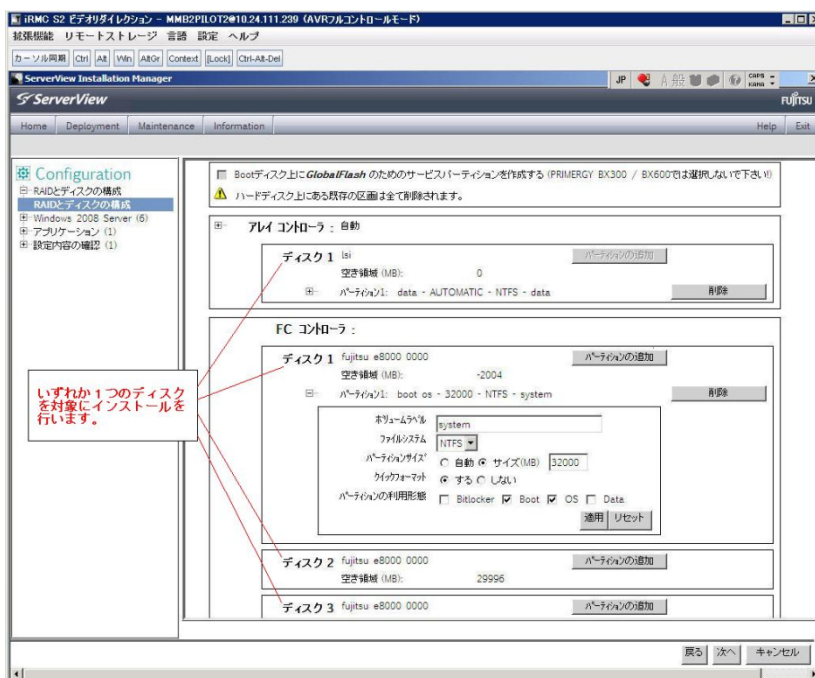
ServerView Installation Manager でアプリケーション One Command Manager を自動インストールした場合、One Command Manager の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with

(2) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

ガイドモードで RAID とディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。

- ・ 複数の「ディスク」に亘ってディスクパーティションを設定しないでください。
- ・ 複数の「ディスク」にディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



(3) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

PCI カードを 8 枚以上接続する場合は、I/O 空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。

- ・ SASU/SASRU に I/O 空間割り当てを行ってください。
- ・ SAN 環境にインストールする場合は、SAN 環境を接続している FC カードに I/O 空間割り当てを行ってください。
- ・ リモートインストールする場合は、内蔵 LAN ポートに I/O 空間割り当てを行ってください。

I/O 空間割り当ての方法は『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス』(C122-E110)の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(4) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

デュアルチャネル SAS アレイコントローラカードを使用する場合、以下の注意事項があります。

Red Hat Enterprise Linux でデュアルチャネル SAS アレイコントローラカード(外付ディスク装置用 RAID カード)を使用する場合、事前に I/O 空間割り当てを行なってください。

当該のカードを搭載した状態で I/O 空間割り当てを行わない場合、Red Hat Enterprise Linux インストール後に OS が起動しないことがあります。

I/O 空間割り当ての方法は『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス』(C122-E110)の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(5) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。

多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されないことがあります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。

(6) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

UEFI 非対応 OS をインストールする場合は注意が必要です。

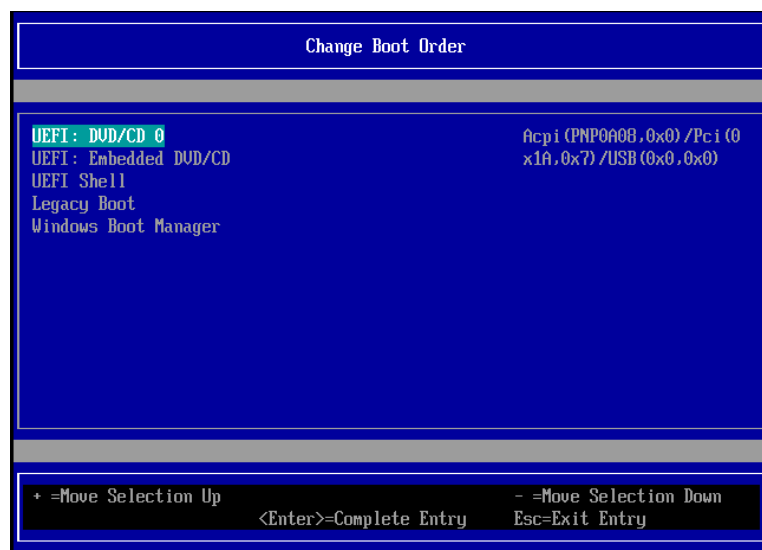
PRIMEQUEST は工場出荷時 UEFI モードです。UEFI に対応していない OS をインストールするにはあらかじめ BIOS モードに設定してからインストールを行ってください。

UEFI に対応していない OS は以下です。

Red Hat Enterprise Linux 6 (for x86)

BIOS モードの設定は以下の手順に従ってください。

- 1) パーティションの電源投入後 FUJITSU ロゴが表示されている間に F2 キーを押し、UEFI 画面を表示させます。
- 2) UEFI 画面で次の順にメニューを選択します。
[Boot Maintenance Manager]—[Boot Options]—[Change Boot Order]—
[Change the order]
- 3) 「Legacy Boot」が最上段になるように指定します。



以下にメニューの意味を示します。

UEFI: Embedded DVD/CD 内蔵 DVD ドライブを使用し UEFI モードでインストールするときに指定します。

Legacy Boot BIOS モードにするときに指定します。リモートストレージを使用し BIOS モードでインストールするときにもこの指定をします。

UEFI Shell 起動時に UEFI のコマンドプロンプトを表示させます。

- 4) [Commit Changes and Exit]—[Reset System]を指定しパーティションをリブートします。

(7) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

リモートガイドモードは行わないでください。

PRIMEQUEST でリモートガイドモードを実行すると、構成によってはエラーが発生しインストールが行えません。通常のリモートインストールを実施してください。

(8) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

CPU/PCI カードを多数搭載した場合の留意事項

CPU/PCI カードを多数搭載した機器の構成の場合、「オペレーティングシステムの選択」画面で OS 選択後にエラーダイアログが表示されることがあります。

この場合は機器の構成を一旦小さくし、SVIM での OS インストール後に構成を戻してください。

(9) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

「Language Selection」画面でフリーズが発生する場合があります。

LAN ポートを多数搭載した構成の場合「Language Selection」画面でマウス操作ができなくなりフリーズ状態が発生する場合がありますが、そのまま待つことで回復します。

この現象は搭載 LAN ポート数が 16 の場合で約 10 分間発生し、LAN ポート数の増加に応じて時間は長くなります。MMB WEB-UI から Partition Configuration 機能を使用して LAN ポート数が 16 以下となる構成にすることで軽減できます。

(10) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

リモートストレージを使用して UEFI モードでインストールする場合 Boot Order を変更する必要があります。

OS を UEFI モードでインストールするには SVIM を UEFI モードで起動する必要があります。

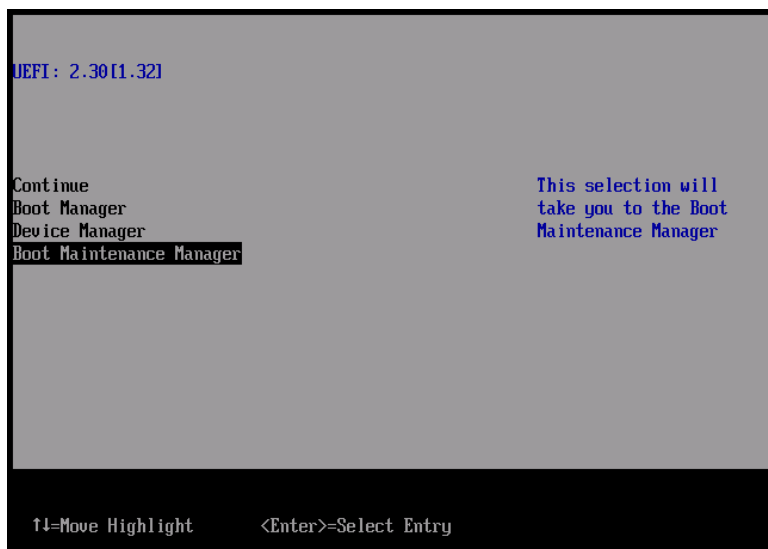
リモートストレージを使用して UEFI モードでインストールする場合は、[Boot Maintenance Manager]内の [UEFI: DVD/CD 0]を最上段に設定してください。

(11) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

VMware ESXi を UEFI モードでインストールした場合は、ブートマネージャの登録を行います。

インストール終了後に以下の手順でブートマネージャの登録を行ってください。

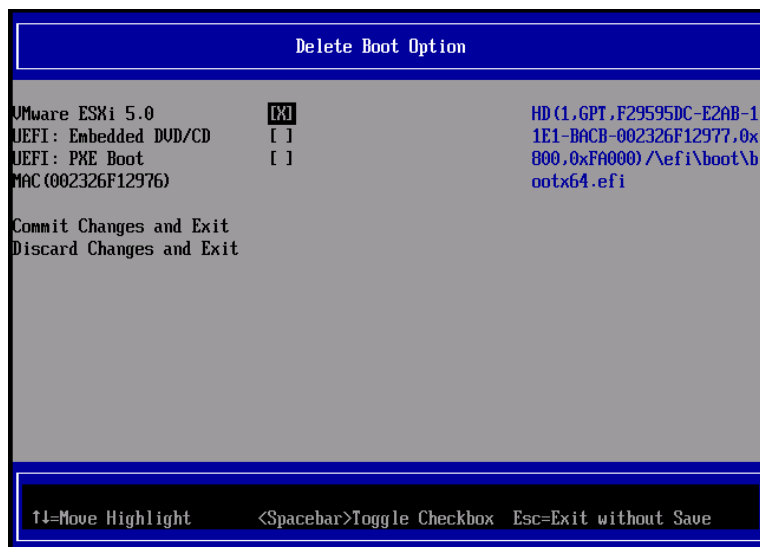
- 1) パーティションの電源投入後 FUJITSU ロゴが表示されている間に F2 キーを押し、UEFI 画面を表示させます。



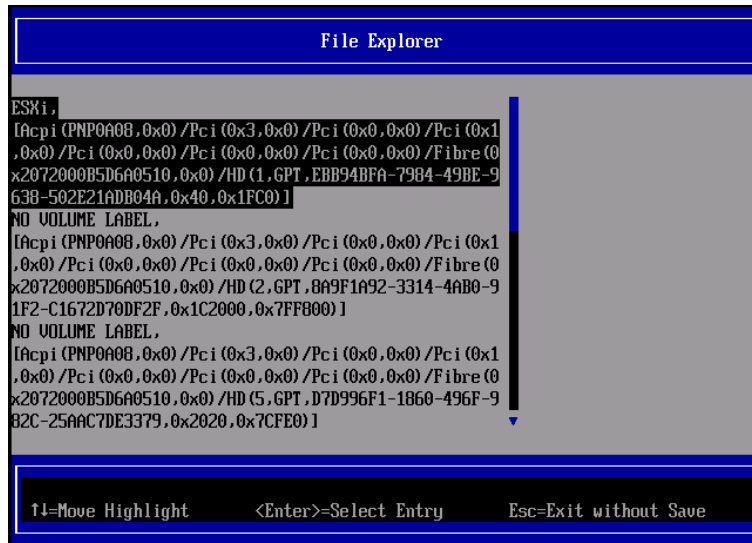
- 2) UEFI 画面で次の順にメニューを選択します。

[Boot Maintenance Manager]—[Boot Options]—[Delete Boot Option]

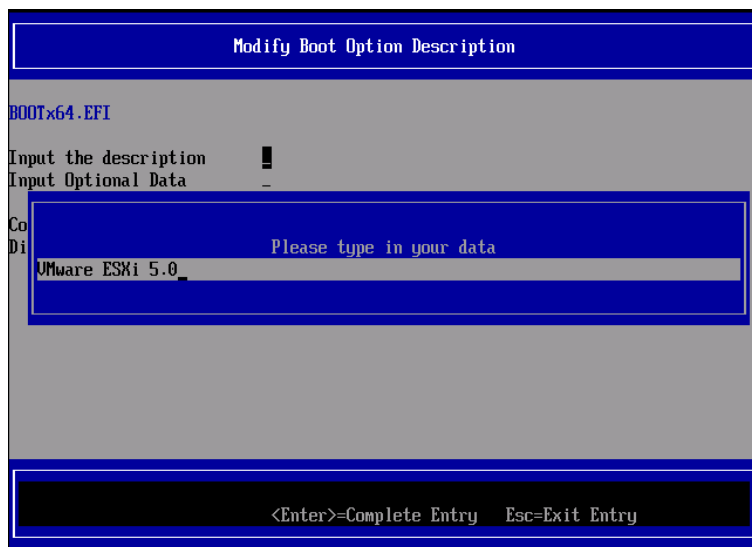
- 3) VMware ESXi x.x にカーソルを合わせてスペースキーを押します。



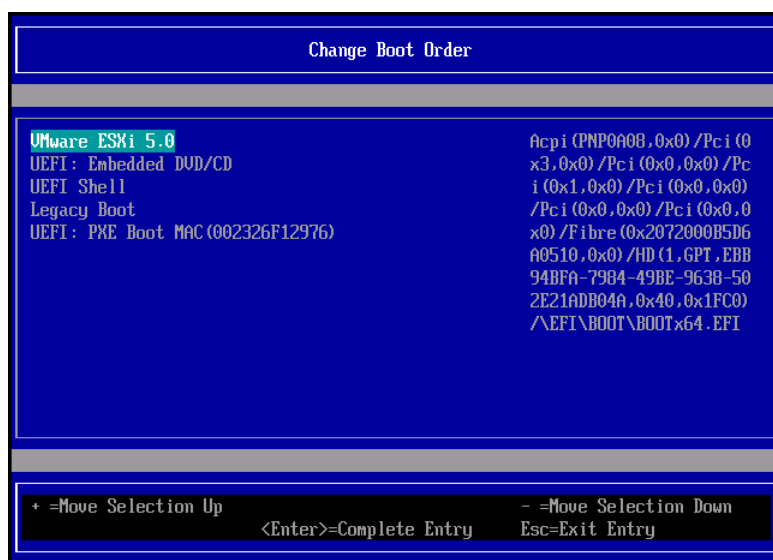
- 4) [Commit Changes and Exit]を選択します。
- 5) [Add Boot Option]を選択します。
- 6) 最上段の"ESXi," と表示されている項目を選択します。



- 7) <EFI> - <BOOT> - Bootx64.EFI を選択します。
- 8) Input the description の項目に以下を入力します。これはブートマネージャの表示項目となります。
“VMware ESXi x.x”



- 9) [Commit Changes and Exit]を選択し、“VMware ESXi x.x”の項目が Boot Order に登録されたことを確認します。



以上で設定は完了です。Enter キーを押してサーバを起動してください。

次回から自動起動するには、追加したブートマネージャをブートオーダーの先頭に位置づけるようにしてください。

インストール可否については、機種ごとのサポート OS 一覧も併せて参照してください。

(12) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ネットワークカードはポート数が 95 以下となるようにしてください。

ネットワークカードの総ポート数が 96 以上となる構成では SVIM の起動中に Uncorrectable Error が発生し正常に起動しない場合があります。そのような場合は、インストール時に、ネットワークカード総ポート数が 95 以下となるようにネットワークカードを取り外してからインストールを実施してください。インストール完了後にネットワークカードを元に戻して運用を開始できます。

(13) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

Red Hat Enterprise Linux をマルチパス構成でインストールする場合の注意について

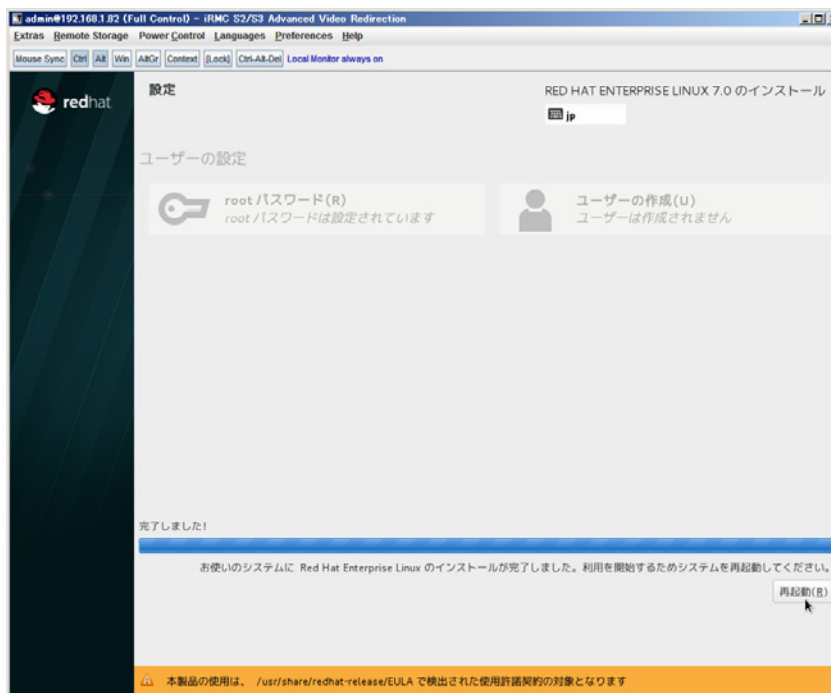
RHEL6 をマルチパス構成インストールする際に、内蔵ハードディスクが存在する場合は、「ブートローダ」画面にいて「ブートローダのインストール場所:」項目に「ブートパーティションの最初のセクター」を選択してください。「MBR」を選択すると OS 起動時にエラーが発生しインストールが正常に終了しません。また、内蔵ハードディスクがない場合であれば「MBR」を選択しても問題ありません。

また RHEL7 についてはマルチパス構成でインストールが行えません。シングルパスでインストールを実施した後、マルチパス構成の接続にしてください。

(14) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

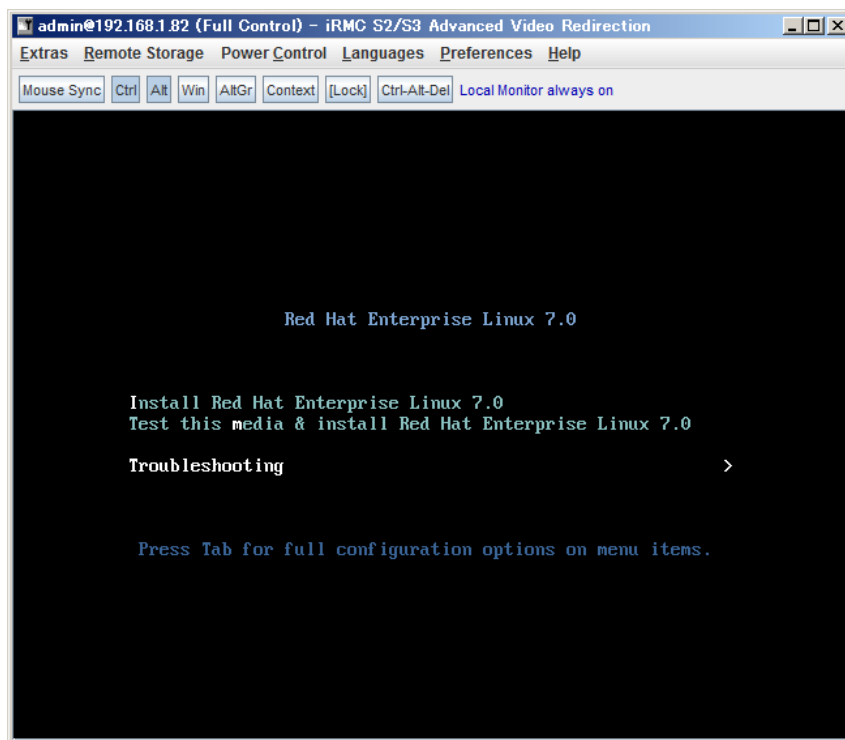
Red Hat Enterprise Linux7 をインストール時のディスク抜き取りについて

Red Hat Enterprise Linux7 をインストールする場合は、OS のインストールが完了すると下図の画面となりますが、この画面でディスクを排出しないでください。I/O エラーが発生し、インストールが正常に完了しません。



再起動ボタンをクリックし、リブートが開始されてから Fujitsu ロゴが表示されている間までに Eject ボタンを押してディスクを抜き取ってください。

DVD ドライブの Eject ボタンを押さずに放置すると、OS メディアのリブートが始まります(下図)。その場合は、<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを同時押により、再びリブートを行ってください。



(15) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

インストール対象以外のハードディスクは外してからインストールを行ってください。
ターゲット以外のハードディスクが存在すると、正しくインストールできない場合があります。

(16) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

Red Hat Enterprise Linux を UEFI モードでインストールする場合は、「ブートローダ」画面の「ブートローダのインストール場所」を「MBR」(デフォルト状態)でインストールしてください。

(17) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

パーティション内の搭載メモリ総数が 256GB 以上の構成で、Windows をインストールする場合は、ブートパーティションサイズを大きく指定してください。

Windows はスワップ用ページファイルをブートパーティションに作成しますが、そのサイズは搭載メモリサイズに依存します。SVIM が設定するブートパーティションのサイズはデフォルトで 51,200MB です。必要に応じて大きく割り当ててください。

(18) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

RHEL7 インストール時の UEFI Secure Boot は SVIM でサポートしていません。

BIOS 設定で UEFI Secure Boot を Enable に設定すると SVIM ではインストールすることができません。必ず Disable に設定してからインストールを実施してください。Secure Boot を有効にするには、OS のインストール後に改めて Enable に設定してください。なお、デフォルト状態では Disable に設定されています。

(19) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

SAN ブート時に ETERNUS の LUN が認識されない場合の対処について

SAN ブート構成の場合に、ETERNUS の LUN が認識されないことがあります。次の点を確認してください。

- ① SVIM 起動時は BIOS 画面の Boot Manager 画面を一旦表示させて Boot デバイスを選択する必要があります。
- ② ブート形式 (UEFI/Legacy) が ETERNUS のフォーマット形式と異なっている場合は認識されません。
- ③ ターゲット LUN を以前別の用途に使用していたときなどで、不当なデータファイルが残っている場合が考えられます。ETERNUS のボリュームのフォーマットを行ってください。

(20) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

Extended Partitioning において割り当てメモリ 4GB 以下で RHEL7 をインストールする場合の注意。

実装メモリが 4GB 構成で RHEL7 をインストールする場合は、「基本情報」ページで「テキストモード(グラフィカルモードが標準)」にチェックしてインストールしてください。または 8GB 以上の DIMM を搭載してください。デフォルト状態でインストールを開始すると、インストール途中で画面がフリーズすることがあります。

(21) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

SUSE Linux Enterprise Server 12 をインストールする際に、LVM ボリュームは指定できません

「RAID とディスクの構成」画面で LVM ボリュームグループの作成にチェックしてインストールを進めるとインストールエラーとなります。

(22) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

Extended Partitioning の場合 SVIM 12.16.10 以降を使用する際には注意が必要です。

Extended Partitioning 構成で SVIM 12.16.10 以降を使用して OS インストールする際に、BSOD となる場合があります。その場合は以下の回避を行ってください。

1. 本体ファームウェアを Bx17021 (x=A,B,C 機種に依存します)以降に変更します。
2. 一時的に CPU core 数を 2core 以上 47 以下に設定します。

OS インストール後に Core 数の割り当てを元に戻してください。

(23) [PRIMQUEST 3000 シリーズ]

RHEL7.3 のインストール時に「OCe14102-UX iSCSI Personality」を使用して iSCSI ブート環境を構築するには、次の手順に沿って設定を行う必要があります。

SVIM GUI の「ブートローダ」画面において「カーネルパラメータ」に次の設定を入力してください。

rd.iscsi.firmware=1

(24) [PRIMQUEST 2000 シリーズ]

RHEL6 をインストールする際に、インストール処理完了後すぐにシャットダウンまたはリブートを行わないでください(目安は 30 分程度)。

(25) [PRIMQUEST 3000/2000 シリーズ]

VMware ESXi6.5 をインストールする場合は、キーボードレイアウトに「US Default」を選択してください。これは、VMware ESXi6.5 がキーボードレイアウトを誤認識する問題の回避策です。

対象となる VMware ESXi6.5 の版数、原因、現象の詳細は『VMware vSphere 6.5 ソフトウェア説明書 (PRIMEQUEST)』の「ESXi 6.5 のインストールおよび環境構築」を参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/documents/products/computing/servers/primequest/vm-soft-6.5-pq-171108.pdf>

(26) [PRIMQUEST 3000 シリーズ]

JX40S2 に OS をインストールする場合は、3SB 以下の構成でお使いください。

パーティションを 4SB 構成とした場合に、SVIM では JX40S2 をストレージとして認識しない問題があります。一時的に 3SB 以下の構成で OS をインストールしてください。

(27) PRIMQUEST 2000 シリーズ

RHEL6, RHEL7 をご使用になる場合において、ファイバチャネルカード、コンバージドネットワークアダプタカードを接続する際はドライバをダウンロードしてアップデートしてください。

対象カード

ファイバチャネルカード: MC-0JFC31/MC-0JFC91/MC-0JFC3L/MC-0JFC9L
MC-0JFC41/MC-0JFCA1/MC-0JFC4L/MC-0JFCAL
MC-0JFC71/MC-0JFC7L
MC-0JFC81/MC-0JFC8L

ドライバ: ファイバチャネルカードドライバ/OCManager V11.2.210.12 以降

コンバージドネットワークアダプタカード: MC-0JCE61/MC-0JCE62
MC-0JCE91/MC-0JCE92

ドライバ: コンバージド・ネットワークアダプタドライバ/OCManager V11.2.1194.19 以降

ドライバは以下の URL からダウンロードできます。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/2000/index.html>

8. ServerView Update Manager (SVUM) の留意事項 (V13.19.01)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

9. ServerView Update Manager Express (SVUME) の留意事項 (V13.19.01)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

IV. ServerView Suite V13.19.04 に関する留意事項

1. ServerView Operations Manager (SVOM) の留意事項 (V13.19.04)

(1) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

PRIMEQUEST シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意してください。

サーバリストへのオブジェクトの追加で、PRIMEQUEST シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST

(2) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

SVOM から PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。

MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストしてください。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照ください。

『運用管理ツールリファレンス』

「1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー」

■[SNMP Trap] 画面

(3) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

ドライバモニタ機能で検出したイベントは、事象が解消した後、すみやかにステータスをクリアしてください。

ステータスをクリアしていない場合、ステータスが Normal 以外のハードウェアのイベントが抑止され、通報されません。

ステータスクリアの方法:

- 1) SVOM 画面からドライバモニタ画面を開く。
- 2) ステータスをクリアしたいコンポーネントを選択して、承認ボタンを押す。
- 3) 画面上部の更新ボタンを押す。

(4) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

パーティションの電源制御を行う場合は、SVOM の電源制御機能は使用せず、MMB から電源制御を行ってください。

- (5) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]
ServerView Operations Manager for Windows V7.20.04 以降を Windows Server 2016 上にインストールする場合は、事前に .NET Framework 3.5 のインストールが必要です。
- (6) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]
Extended Partitioning 構成の場合に Single System View の CPU の構成表示が正しくありません。正しい値を確認するには MMB Web-UI を使用してください。
- (7) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]
Single System View でバッテリー情報を表示した際の電源 ON 時間が正しく表示されません。正しい値を確認するには MMB Web-UI を使用してください。
- (8) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]
AHCI モードで使用する際に M.2 デバイスが表示されません。
M.2 デバイスを AHCI モードで使用する際、シングルシステムビューのドライバモニタに表示されません。この問題は Linux のみ発生します。
- (9) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]
ESXi サーバの詳細情報が表示できません
ESXi サーバを監視する環境において、シングルシステムビューを表示する際にウィンドウ内の表示コンテンツがブランク表示される問題があります。
- (10) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]
Update Manager によるアップデートが行えません
SVOM 9.00.07 において、インベントリ収集が行えません。そのためアップデートマネージャ機能を利用することができません。
- (11) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]
シングルシステムビューの外部記憶装置を選択した際に表示される状態画面において、Device View を表示させることができない。
- (12) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]
SVOM の表示上で、LAN カード QL45611 のデバイス名の文字列にごみ文字 1 文字が表示されます。
正: QLogicFastLinQ PLAN EP QL45611
異: QLogicFastLinQ◆ PLAN EP QL45611

2. ServerView Agents の留意事項 (V13.19.04)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ドライバモニタで表示されるイベント情報は、OS の再起動、または ServerView Agents の再起動で情報がクリアされます。

(2) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

OS 起動時には、正常にログ監視ができない場合があります。OS 起動後の SVOM 画面で、IO に異常がないか確認してください。

(3) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

PRIMEQUEST 2000 シリーズで Windows Server 2008 R2 を ServerView Installation Manager を使用せず手動でインストールした環境で使用する場合、ServerView Agents をインストールする前に、以下の Windows 修正プログラムを適用してください。

<http://support.microsoft.com/kb/2674913/ja>

(4) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Windows 環境において、以下の操作を行った場合、手動で ServerView Agents の再起動が必要になります。

- ServerView Agents が既にインストールされている状態で ServerView RAID をインストールした場合。

ServerView Agents の再起動を実施しない場合、ServerView RAID に関するイベント(28500～28999)の故障箇所特定が行えません。

「Diagnostic Tools」メニューの「Restart Agents」で ServerView Agents の再起動を行ってください。

(5) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Red Hat Enterprise Linux 7 環境において ServerView Agents 起動時に、下記の WARNING メッセージが /var/log/messages に出力される場合がありますが、動作には影響ありません。

```
systemd: [/etc/rc.d/init.d/eecd:21] Failed to add dependency on +aurad.service, ignoring: Invalid argument
```

```
systemd: [/etc/rc.d/init.d/srvmagt_scs:19] Failed to add dependency on +eecd.service, ignoring: Invalid argument
```

(6) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ServerView Agents を RHEL7.2 にインストールする場合に、「succeeded!」の表示のあとに、以下のようなエラーメッセージが出力される場合があります。

「./functions: 行 76: log_failure_msg: コマンドが見つかりません
Starting aborted with status 1 (General error).」
インストールは正常に終了している為、このメッセージの対応は必要ありません。

3. ServerView RAID の留意事項 (V13.19.04)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

- 1) 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID : 51

種類 : 警告

ソース : Disk

説明 : ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddiskx¥DRy 上でエラーが検出されました。

→記録されている場合は、2)へ。

- 2) ServerView RAID 画面から、上記 1)で発生したデバイスが表示されているか確認します。

→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、3)へ。

- 3) ServerView RAID 画面から、上記 2)上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。

→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。

(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

(2) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Windows 環境において、以下の操作を行った場合、手動で ServerView Agents の再起動が必要になります。

- ・ ServerView Agents が既にインストールされている状態で ServerView RAID をインストールした場合。

ServerView Agents の再起動を実施しない場合、ServerView RAID に関するイベント(28500～28999)の故障箇所特定が行えません。

「Diagnostic Tools」メニューの「Restart Agents」で ServerView Agents の再起動を行ってください。

(3) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ホスト名が解決されるようにネットワーク環境を設定してください。名前解決ができない場合は、ServerView RAID Manager サービスが正常に起動しない場合があります。

<例>

ServerView RAID Manager が起動せず、以下のメッセージが記録されます。

Waiting until ServerView-RAID service is listening on port #3173 0 giving up after 30 seconds

ServerView-RAID service is not listening. Continue anyway.

現象が発生する場合は、"/etc/hosts"ファイルに設定を追記してください。

<例>

192.168.0.1 Hostname

127.0.0.1 localhost localhost.localdomain localhost4 localhost4.localdomain4

::1 localhost localhost.localdomain localhost6 localhost6.localdomain6

(4) [PRIMEQUEST 2400S2 Lite/2400S2/2400E2/2400L2/2800E2/2800L2]

ServerView RAID で DISK UNIT の監視を行う場合、ディスクが搭載されている DISK UNIT の搭載スロット番号と ServerView RAID 上の物理ドライブ番号が一致しません。

ServerView RAID で監視を行なう場合は、以下のように読み替えて運用してください。

ServerView RAD 物理ドライブ番号	DISK UNIT 搭載スロット番号
0	HDD#0
1	HDD#1
4	HDD#2
5	HDD#3

4. ServerView Mission Critical Option (SVMco) の留意事項 (V13.19.04)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

SVMco1.4 版以降を使用しており、IPv6 を無効にする場合、以下の snmptrapd の設定ファイルから設定の削除が必要です。

設定を削除しない場合、Trap を受信することが出来ない状態となり、例えば PRIMECLUSTER 連携をしている場合、他ノードからの Trap を受信できない問題などがあります。

以下の手順に従って設定を削除して下さい。

3. /etc/snmp/snmptrapd.conf を開き、以下の”udp6:162”を削除する。

修正前:

```
snmpTrapdAddr udp:162,udp6:162
```

修正後:

```
snmpTrapdAddr udp:162
```

4. snmptrapd を再起動し、正常に起動することを確認します。

```
#/etc/init.d/snmptrapd restart
snmptrapd を停止中:                [ OK ]
snmptrapd を起動中:                [ OK ]
#
```

(2) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Red Hat Enterprise Linux 上で SVMco 起動時、syslog に以下のメッセージが出力された場合、再起動手順に従って SVMco を再起動して下さい。

```
SVMco: E 02801 y10SVMco Initialization Error
```

【再起動手順】

以下の手順を管理者権限で実行して下さい。

5) SVMco を停止します。

```
# service y10SVMco stop
```

6) ipmi サービスを再起動するため、ipmi を使用しているその他のサービスを停止する必要があります。

以下のソフトウェアがインストールされている場合にはサービスを停止してください。

停止方法については、各製品のマニュアル/README を参照して下さい。

- ServerView Agent
- ServerView Agentless Service
- PRIMEQUEST REMCS Option

注意事項

その他、ipmi サービスを使用しているソフトウェアをインストールしている場合、それらのサービスも停止させてください。

7) IPMI サービスを再起動します。

```
#service ipmi stop
```

```
#service ipmi start
```

8) 手順 1、2 で停止したサービスを起動します。

例: SVMco の場合は以下の通り。その他の製品については各製品のマニュアルを参照して下さい。

```
# service y10SVMco start
```

```
# service y30SVMco start
```

SVMco 再起動後、syslog に以下のメッセージが出力されていない事を確認して下さい。

```
SVMco: E 02801 y10SVMco Initialization Error
```

出力される場合、上記の 1～4 の手順を再度実施して下さい。

(3) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

Extended Partitioning の場合、SVmco インストール後の初回起動に 10 分ほどかかることがあります。

(4) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

OS が RHEL6.8 以降で SVmco のアンインストール時に下記のメッセージが出力されますがアンインストールは正常に行えているため問題ありません。

警告: erase xxxxx の unlink に失敗: そのようなファイルやディレクトリはありません

※ xxxxx はファイル名が記載されます。

(5) [PRIMEQUEST 3000 シリーズ]

PRIMEQUEST 3000 シリーズはサポート対象外です。

5. ServerView Mission Critical Option for VM (SVmcovm) の留意事項 (V13.19.04)

(1) [PRIMEQUEST 3000 シリーズ]

PRIMEQUEST 3000 シリーズはサポート対象外です。

6. ServerView ESXi CIM Provider の留意事項 (V13.19.04)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ServerView ESXi CIM Provider V7.01.04 からソフトウェアウォッチドッグの動作が変更になりました。

ソフトウェアウォッチドッグはシステム監視用途にのみ使用することができます。

使用する場合は SVOM または MMB のソフトウェアウォッチドッグの設定画面で以下の条件を満たす設定にする必要があります。

SVOM の場合

異常時動作: 継続動作

タイムアウト時間: 4 分以上の値

MMB の場合

Action when watchdog expires : continue

Timeout time(second) : 240 秒以上の値

設定方法の詳細については、それぞれのマニュアルを参照してください。

(2) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ServerView Operations Manager(SVOM)からパーティションの監視を行うことができません。

PRIMEQUEST のハードウェア監視は、以下のいずれかの方法で行ってください。

1. SVOM を使用してパーティション監視を行う場合

以下の条件でのみパーティションの監視を行うことが可能です。

条件に合致しない場合、2. または3. の方法で監視を行ってください。

1SB でパーティションを構成している場合:

ServerView ESXi CIM Provider V7.20.21 以降のバージョンを使用することで、SVOM でパーティションの監視が行えます。

なお、VMware ESXi 6.5 を使用している場合は ServerView ESXi CIM Provider V7.31.14 以降のバージョンが必要となります。

VMware ESXi 5.5 を使用している場合:

ServerView ESXi CIM Provider V7.00.08 以前のバージョンを使用することで、SVOM でパーティションの監視が行えます。

使用できる ServerView ESXi CIM Provider の版数は装置によって異なりますので、各 ServerView ESXi CIM Provider の対応版数をご確認ください。

2. SVOM を使用して筐体ノードのみハードウェア監視を行う場合

SVOM のサーバリストで PRIMEQUEST 筐体ノードのみハードウェア監視を行うことが可能です。

SVOM では PRIMEQUEST 筐体ノード配下の各パーティションノード (VMware ESXi) の直接の監視は正しく行えません。ただし、MMB がハードウェア監視を行っており、SVOM のサーバリストの PRIMEQUEST 筐体ノードのステータスに反映されるため、ここで確認ができます。

仮想マシンの情報 (VMware ESXi ホスト配下の仮想マシンの情報) や OS の情報については vCenter Server で確認ができます。

3. SVOM を使用せず監視を行う場合

MMB Web-UI でハードウェアの監視を行ってください。

仮想マシンの情報 (VMware ESXi ホスト配下の仮想マシンの情報) や OS の情報については MMB Web-UI では確認できません。vCenter Server で確認してください。

7. ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項 (V13.19.04)

(1) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

One Command Manager 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。

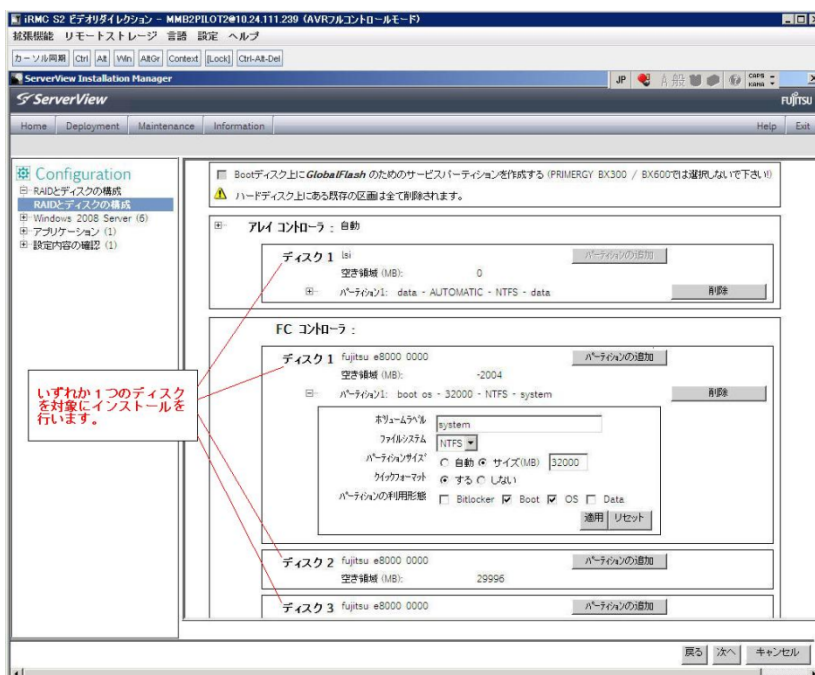
ServerView Installation Manager でアプリケーション One Command Manager を自動インストールした場合、One Command Manager の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with

(2) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

ガイドモードで RAID とディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。

- ・ 複数の「ディスク」に亘ってディスクパーティションを設定しないでください。
- ・ 複数の「ディスク」にディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



(3) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

PCI カードを 8 枚以上接続する場合は、I/O 空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。

- ・ SASU/SASRU に I/O 空間割り当てを行ってください。
- ・ SAN 環境にインストールする場合は、SAN 環境を接続している FC カードに I/O 空間割り当てを行ってください。
- ・ リモートインストールする場合は、内蔵 LAN ポートに I/O 空間割り当てを行ってください。

I/O 空間割り当ての方法は『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス』(C122-E110)の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(4) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

デュアルチャネル SAS アレイコントローラカードを使用する場合、以下の注意事項があります。

Red Hat Enterprise Linux でデュアルチャネル SAS アレイコントローラカード(外付ディスク装置用 RAID カード)を使用する場合、事前に I/O 空間割り当てを行なってください。

当該のカードを搭載した状態で I/O 空間割り当てを行わない場合、Red Hat Enterprise Linux インストール後に OS が起動しないことがあります。

I/O 空間割り当ての方法は『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス』(C122-E110)の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(5) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。

多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されないことがあります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。

(6) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

UEFI 非対応 OS をインストールする場合は注意が必要です。

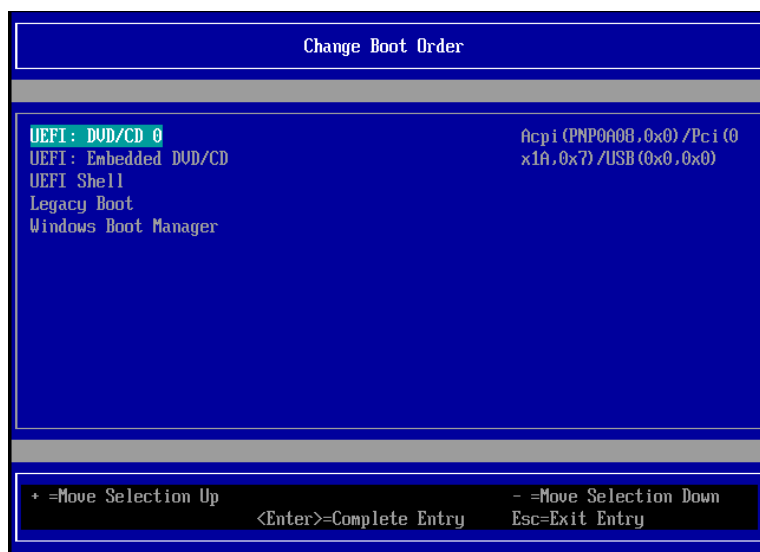
PRIMEQUEST は工場出荷時 UEFI モードです。UEFI に対応していない OS をインストールするにはあらかじめ BIOS モードに設定してからインストールを行ってください。

UEFI に対応していない OS は以下です。

Red Hat Enterprise Linux 6 (for x86)

BIOS モードの設定は以下の手順に従ってください。

- 5) パーティションの電源投入後 FUJITSU ロゴが表示されている間に F2 キーを押し、UEFI 画面を表示させます。
- 6) UEFI 画面で次の順にメニューを選択します。
[Boot Maintenance Manager]—[Boot Options]—[Change Boot Order]—
[Change the order]
- 7) 「Legacy Boot」が最上段になるように指定します。



以下にメニューの意味を示します。

UEFI: Embedded DVD/CD 内蔵 DVD ドライブを使用し UEFI モードでインストールするときに指定します。

Legacy Boot BIOS モードにするときに指定します。リモートストレージを使用し BIOS モードでインストールするときにもこの指定をします。

UEFI Shell 起動時に UEFI のコマンドプロンプトを表示させます。

- 8) [Commit Changes and Exit]—[Reset System]を指定しパーティションをリブートします。

(7) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

リモートガイドモードは行わないでください。

PRIMEQUEST でリモートガイドモードを実行すると、構成によってはエラーが発生しインストールが行えません。通常のリモートインストールを実施してください。

(8) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

CPU/PCI カードを多数搭載した場合の留意事項

CPU/PCI カードを多数搭載した機器の構成の場合、「オペレーティングシステムの選択」画面で OS 選択後にエラーダイアログが表示されることがあります。

この場合は機器の構成を一旦小さくし、SVIM での OS インストール後に構成を戻してください。

(9) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

「Language Selection」画面でフリーズが発生する場合があります。

LAN ポートを多数搭載した構成の場合「Language Selection」画面でマウス操作ができなくなりフリーズ状態が発生する場合がありますが、そのまま待つことで回復します。

この現象は搭載 LAN ポート数が 16 の場合で約 10 分間発生し、LAN ポート数の増加に応じて時間は長くなります。MMB WEB-UI から Partition Configuration 機能を使用して LAN ポート数が 16 以下となる構成にすることで軽減できます。

(10) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

リモートストレージを使用して UEFI モードでインストールする場合 Boot Order を変更する必要があります。

OS を UEFI モードでインストールするには SVIM を UEFI モードで起動する必要があります。

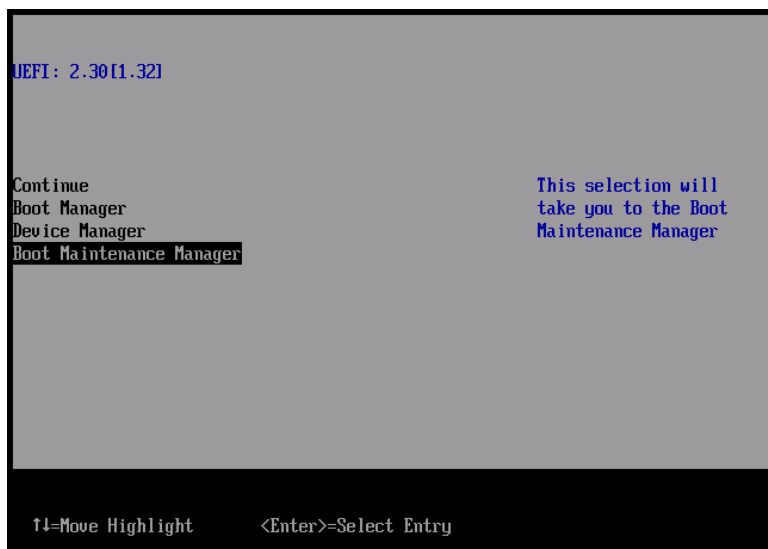
リモートストレージを使用して UEFI モードでインストールする場合は、[Boot Maintenance Manager]内の [UEFI: DVD/CD 0]を最上段に設定してください。

(11) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

VMware ESXi を UEFI モードでインストールした場合は、ブートマネージャの登録を行います。

インストール終了後に以下の手順でブートマネージャの登録を行ってください。

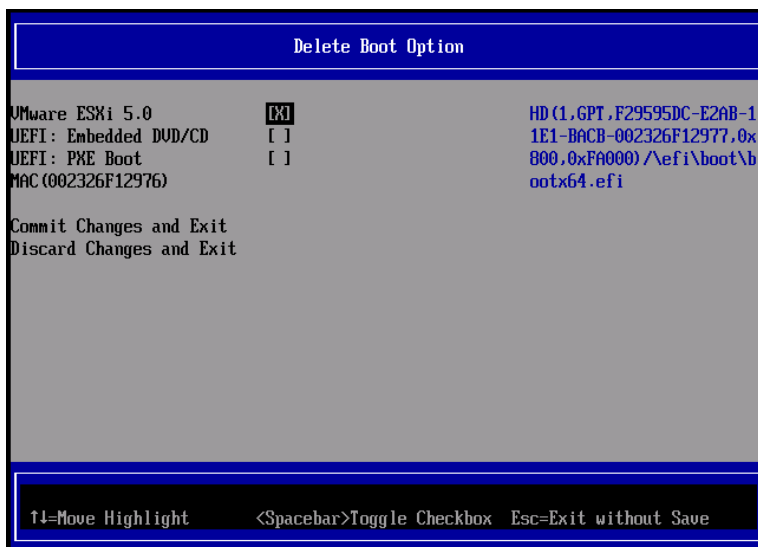
- 10) パーティションの電源投入後 FUJITSU ロゴが表示されている間に F2 キーを押し、UEFI 画面を表示させます。



- 11) UEFI 画面で次の順にメニューを選択します。

[Boot Maintenance Manager]—[Boot Options]—[Delete Boot Option]

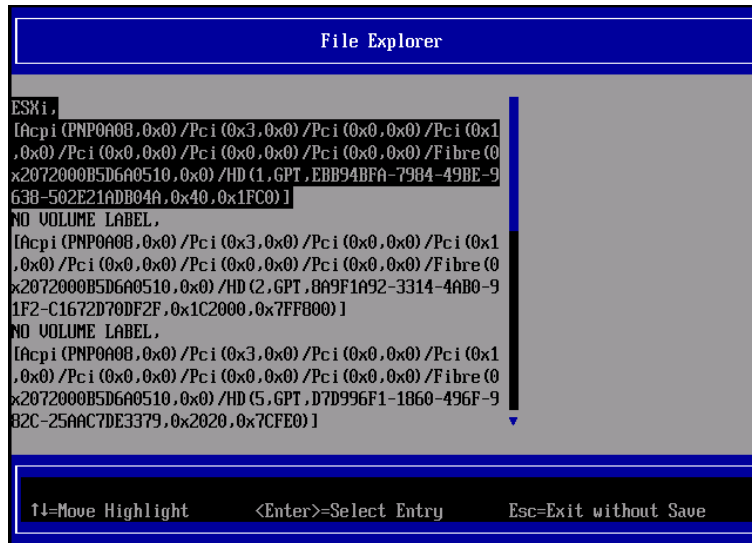
- 12) VMware ESXi x.x にカーソルを合わせてスペースキーを押します。



- 13) [Commit Changes and Exit]を選択します。

- 14) [Add Boot Option]を選択します。

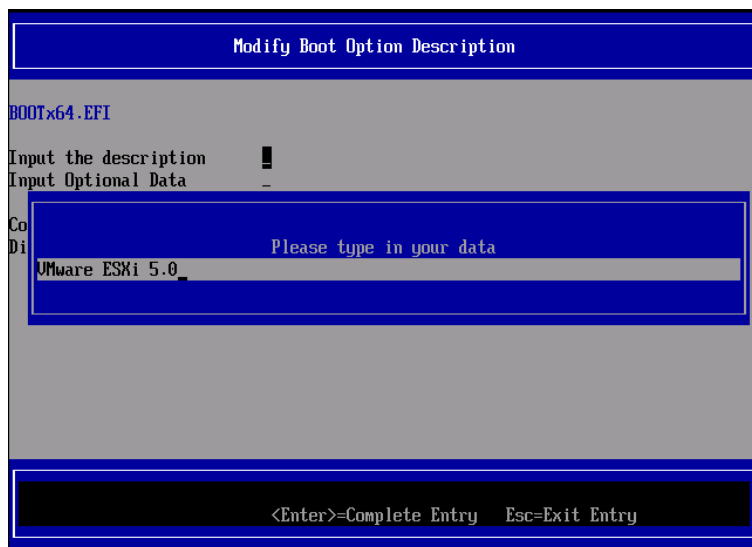
- 15) 最上段の"ESXi," と表示されている項目を選択します。



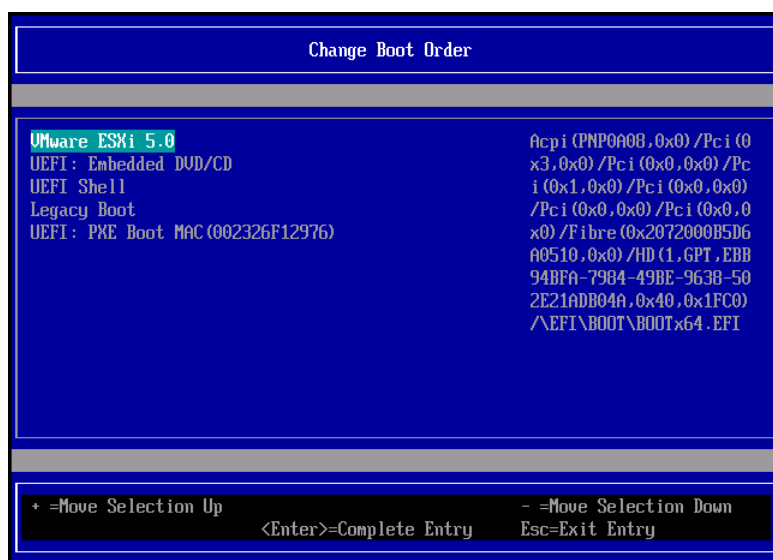
16) <EFI> - <BOOT> - Bootx64.EFI を選択します。

17) Input the description の項目に以下を入力します。これはブートマネージャの表示項目となります。

“VMware ESXi x.x”



18) [Commit Changes and Exit]を選択し、“VMware ESXi x.x”の項目が Boot Order に登録されたことを確認します。



以上で設定は完了です。Enter キーを押してサーバを起動してください。

次回から自動起動するには、追加したブートマネージャをブートオーダーの先頭に位置づけるようにしてください。

インストール可否については、機種ごとのサポート OS 一覧も併せて参照してください。

(12) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

ネットワークカードはポート数が 95 以下となるようにしてください。

ネットワークカードの総ポート数が 96 以上となる構成では SVIM の起動中に Uncorrectable Error が発生し正常に起動しない場合があります。そのような場合は、インストール時に、ネットワークカード総ポート数が 95 以下となるようにネットワークカードを取り外してからインストールを実施してください。インストール完了後にネットワークカードを元に戻して運用を開始できます。

(13) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

Red Hat Enterprise Linux をマルチパス構成でインストールする場合の注意について

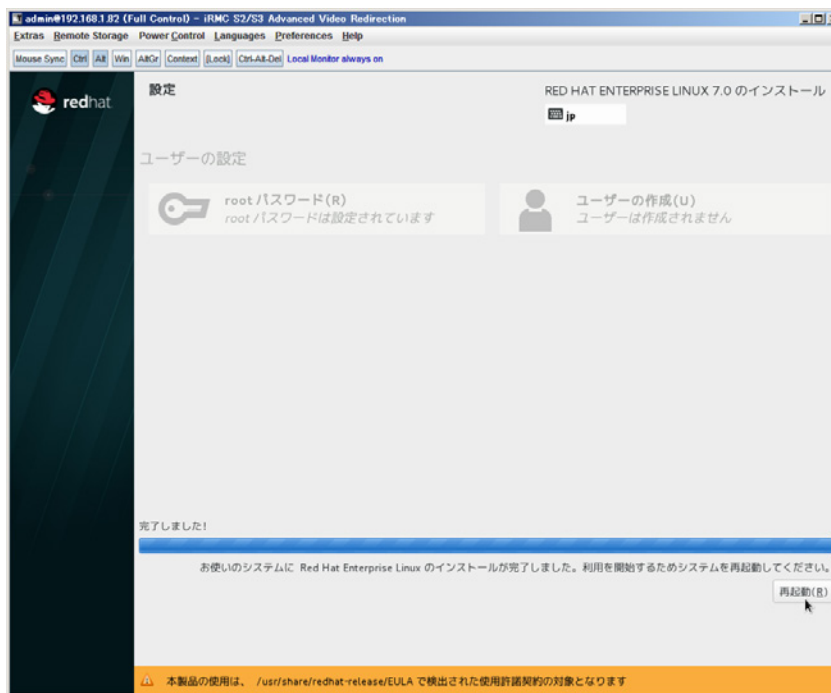
RHEL6 をマルチパス構成インストールする際に、内蔵ハードディスクが存在する場合は、「ブートローダ」画面にいて「ブートローダのインストール場所:」項目に「ブートパーティションの最初のセクター」を選択してください。「MBR」を選択すると OS 起動時にエラーが発生しインストールが正常に終了しません。また、内蔵ハードディスクがない場合であれば「MBR」を選択しても問題ありません。

また RHEL7 についてはマルチパス構成でインストールが行えません。シングルパスでインストールを実施した後、マルチパス構成の接続にしてください。

(14) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

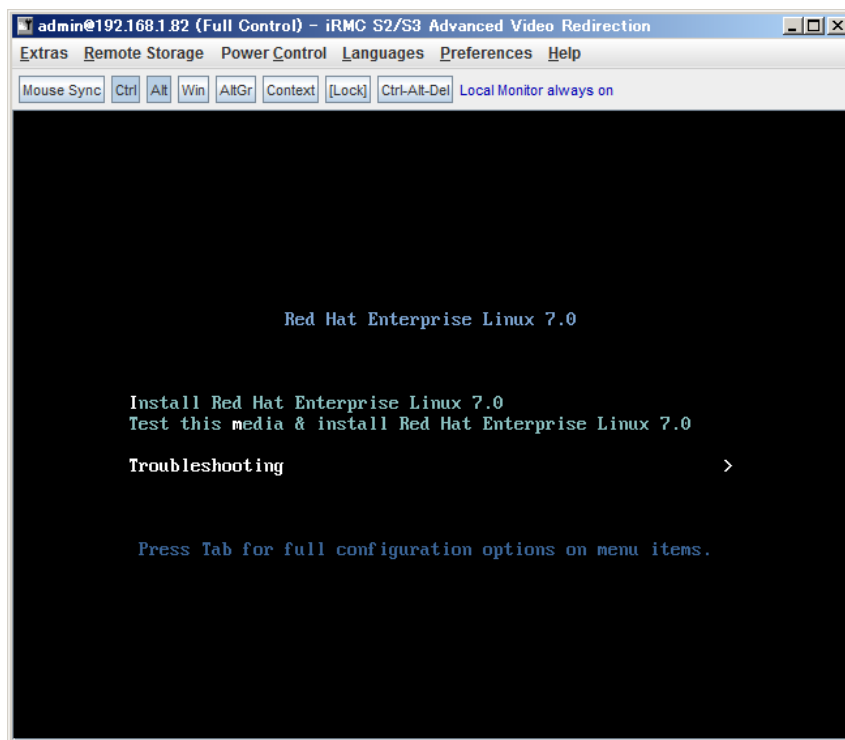
Red Hat Enterprise Linux7 をインストール時のディスク抜き取りについて

Red Hat Enterprise Linux7 をインストールする場合は、OS のインストールが完了すると下図の画面となりますが、この画面でディスクを排出しないでください。I/O エラーが発生し、インストールが正常に完了しません。



再起動ボタンをクリックし、リブートが開始されてから Fujitsu ロゴが表示されている間までに Eject ボタンを押してディスクを抜き取ってください。

DVD ドライブの Eject ボタンを押さずに放置すると、OS メディアのリブートが始まります(下図)。その場合は、<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを同時押により、再びリブートを行ってください。



(15) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

インストール対象以外のハードディスクは外してからインストールを行ってください。
ターゲット以外のハードディスクが存在すると、正しくインストールできない場合があります。

(16) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

Red Hat Enterprise Linux を UEFI モードでインストールする場合は、「ブートローダ」画面の「ブートローダのインストール場所」を「MBR」(デフォルト状態)でインストールしてください。

(17) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

パーティション内の搭載メモリ総数が 256GB 以上の構成で、Windows をインストールする場合は、ブートパーティションサイズを大きく指定してください。

Windows はスワップ用ページファイルをブートパーティションに作成しますが、そのサイズは搭載メモリサイズに依存します。SVIM が設定するブートパーティションのサイズはデフォルトで 51,200MB です。必要に応じて大きく割り当ててください。

(18) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

RHEL7 インストール時の UEFI Secure Boot は SVIM でサポートしていません。

BIOS 設定で UEFI Secure Boot を Enable に設定すると SVIM ではインストールすることができません。必ず Disable に設定してからインストールを実施してください。Secure Boot を有効にするには、OS のインストール後に改めて Enable に設定してください。なお、デフォルト状態では Disable に設定されています。

(19) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

SAN ブート時に ETERNUS の LUN が認識されない場合の対処について

SAN ブート構成の場合に、ETERNUS の LUN が認識されないことがあります。次の点を確認してください。

- ① SVIM 起動時は BIOS 画面の Boot Manager 画面を一旦表示させて Boot デバイスを選択する必要があります。
- ② ブート形式 (UEFI/Legacy) が ETERNUS のフォーマット形式と異なっている場合は認識されません。
- ③ ターゲット LUN を以前別の用途に使用していたときなどで、不当なデータファイルが残っている場合が考えられます。ETERNUS のボリュームのフォーマットを行ってください。

(20) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

Extended Partitioning において割り当てメモリ 4GB 以下で RHEL7 をインストールする場合の注意。

実装メモリが 4GB 構成で RHEL7 をインストールする場合は、「基本情報」ページで「テキストモード(グラフィカルモードが標準)」にチェックしてインストールしてください。または 8GB 以上の DIMM を搭載してください。デフォルト状態でインストールを開始すると、インストール途中で画面がフリーズすることがあります。

(21) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

SUSE Linux Enterprise Server 12 をインストールする際に、LVM ボリュームは指定できません

「RAID とディスクの構成」画面で LVM ボリュームグループの作成にチェックしてインストールを進めるとインストールエラーとなります。

(22) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

Extended Partitioning の場合 SVIM 12.16.10 以降を使用する際には注意が必要です。

Extended Partitioning 構成で SVIM 12.16.10 以降を使用して OS インストールする際に、BSOD となる場合があります。その場合は以下の回避を行ってください。

3. 本体ファームウェアを Bx17021 (x=A,B,C 機種に依存します)以降に変更します。
4. 一時的に CPU core 数を 2core 以上 47 以下に設定します。

OS インストール後に Core 数の割り当てを元に戻してください。

(23) [PRIMQUEST 3000 シリーズ]

RHEL7.3 のインストール時に「OCe14102-UX iSCSI Personality」を使用して iSCSI ブート環境を構築するには、次の手順に沿って設定を行う必要があります。

SVIM GUI の「ブートローダ」画面において「カーネルパラメータ」に次の設定を入力してください。

rd.iscsi.firmware=1

(24) [PRIMQUEST 2000 シリーズ]

RHEL6 をインストールする際に、インストール処理完了後すぐにシャットダウンまたはリブートを行わないでください(目安は 30 分程度)。

(25) [PRIMQUEST 3000/2000 シリーズ]

VMware ESXi6.5 をインストールする場合は、キーボードレイアウトに「US Default」を選択してください。これは、VMware ESXi6.5 がキーボードレイアウトを誤認識する問題の回避策です。

対象となる VMware ESXi6.5 の版数、原因、現象の詳細は『VMware vSphere 6.5 ソフトウェア説明書 (PRIMEQUEST)』の「ESXi 6.5 のインストールおよび環境構築」を参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/documents/products/computing/servers/primequest/vm-soft-6.5-pq-171108.pdf>

(26) [PRIMQUEST 3000 シリーズ]

JX40S2 に OS をインストールする場合は、3SB 以下の構成でお使いください。

パーティションを 4SB 構成とした場合に、SVIM では JX40S2 をストレージとして認識しない問題があります。一時的に 3SB 以下の構成で OS をインストールしてください。

(27) [PRIMQUEST 2000 シリーズ]

RHEL6, RHEL7 をご使用になる場合において、ファイバチャネルカード、コンバージドネットワークアダプタカードを接続する際はドライバをダウンロードしてアップデートしてください。

対象カード

ファイバチャネルカード: MC-0JFC31/MC-0JFC91/MC-0JFC3L/MC-0JFC9L
MC-0JFC41/MC-0JFCA1/MC-0JFC4L/MC-0JFCAL
MC-0JFC71/MC-0JFC7L
MC-0JFC81/MC-0JFC8L

ドライバ: ファイバチャネルカードドライバ/OCManager V11.2.210.12 以降

コンバージドネットワークアダプタカード: MC-0JCE61/MC-0JCE62
MC-0JCE91/MC-0JCE92

ドライバ: コンバージド・ネットワークアダプタドライバ/OCManager V11.2.1194.19 以降

ドライバは以下の URL からダウンロードできます。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/2000/index.html>

(28) [PRIMQEUST 3000/2000 シリーズ]

iSCSI 環境が認識されません

SVIM を使用してインストールする際に、iSCSI 接続先のターゲット LUN が認識されません。そのため iSCSI 接続先にインストールすることができません。

(29) [PRIMQEUST 3000/2000 シリーズ]

ServerView Agentless Service は手動でインストールしてください

SLES12, SLES15 をインストールする際に、ServerView Agentless Service のパッケージの一部がインストールされません。ServerView Agentless Service は SVIM でインストール指定せず、OS をインストールしたあとに手動でインストールしてください。

(30) [PRIMQEUST 3000/2000 シリーズ]

Windows Server 2012 において bitlocker 指定ができません

Windows Server 2012 をインストールする際に、bitlocker 指定をしても bitlocker パーティションが作成されない問題があります。

8. ServerView Update Manager (SVUM) の留意事項 (V13.19.04)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

9. ServerView Update Manager Express (SVUME) の留意事項 (V13.19.04)

(1) [PRIMEQUEST 2000 シリーズ]

PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

10. PrimeCollect の留意事項 (V13.19.04)

(1) [PRIMEQUEST 3000/2000 シリーズ]

RHEL7.6 環境において PrimeCollect 内の sosreport コマンドに不具合があるため、PrimeCollect の実行中にエラーが発生するためです。これを回避するには、アドバイザリ番号:2018-3338 の errata の適用を行ってください。

